

## 総研大ニュース

## EXODASS general meeting and mini-symposium

平成20年度後期より4期にわたって実施された、JSPS事業「若手研究者交流支援事業～東アジア首脳会議参加国からの招へい～」(JENESYSプログラム)の後継プログラムとして、分子研独自予算によるEXODASS (EXchange prOgram for the Development of Asian Scientific Society) プログラムが平成23年度より発足しており、今年度は第3回目の招聘となる。

本事業では、現代自然科学が解決すべき問題のひとつである環境・エネルギー問題を中心とした分子科学の諸問題に対して、東アジア諸国における自国での研究開発を可能にするための基礎研究基盤の確立を協力を支援すべく、主として学位取得前後の若手研究者を招聘している。また、本交流事業後のフォローアップとして共同研究体制を確立し、自国における基礎研究の継続を力強くサポートすることで、基礎科学の定着を推進することも目的としている。完全な分子研独自予算の事業になってからは、所内に適したプログラムにしていけるために毎年システムの変更を行っているが、今回の最も重要な変更点は、学術交流協定(MOU)に基づく学生交換プログラムと本プロ

ラムを一体運用したことである。その結果、より広範な人材を確保できるようになった。事実、昨年度の参加者は9名だったが、今回は12名(内訳:タイ4名、ベトナム、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、オーストラリア、中国、台湾各1名)を最終的に招聘することができた。そのうち2名がMOUの交換学生である。現在、MOU交換プログラムの拡充を検討しており、その状況次第では、来年度以後更に充実したプログラムになることが期待される。また、過去に一度実施し好評だった、EXODASS全体会議と総研大アジア冬の学校の共同開催も今回再度実現した。

今年度は4月から6月にかけて募集及び候補者選考を行い、招聘は2013年10月～12月の期間に、候補者別に29～90日間の滞在日数で実施した。その結果、ほとんどの参加者の滞在期間を重複させることができ、ネットワーク形成に大いに役立った。また先述の通り冬の学校のプログラムの一部として、12月11日に一同に会し、全体会議とミニシンポジウムを開催した。本プログラムの大き



な目的のひとつとして、将来にわたるアジア分子科学ネットワークの形成があり、各国の同世代の若手研究者の横のつながりを形成する上でこの全体会議の役割は非常に大きい。今回も、分子研在籍の留学生や冬の学校参加者も含め、例年以上に盛り上がり、成功裏に終了した。

独自事業になって3年経ち、プログラムの完成度は高まっているが、このような成功を続けるためには、特にアジア冬の学校など、共同開催が効果的な他のプログラムとの緊密な連携が重要である。現在、本事業では、候補者の選定に時間がかかるために年度当初から告知・募集する必要があり、連携をとる他のプログラムも含めた年度計画をあらかじめ立てておくことが重要と考えている。

(櫻井 英博 記)

## 分子科学研究所一カセサート大学合同会議「グリーンサステナビリティに向けた分子科学」 Joint IMS-KU Workshop on Molecular Sciences towards Green Sustainability

2014年1月5日、6日に表題の合同会議がタイ・バンコクのカセサート大学・理学部において開催されました。カセサート大学・理学部と総研大・物理科学研究所は2011年よりMOUを締結しており、これまでも大学間の研究・教育の交流があります。また、カセサート大学からは、総研大アジア冬の学校やJENESYSまたはEXODASS事業を通

じて多くの若手研究者や学生達が分子研を訪れています。今回は初めての合同会議になりましたが、カセサート大学側のホストとしてSupa Hannongbua教授、分子研側の世話役として江原が対応し、2日間の合同会議を開催しました。また本合同会議後には、タイの化学会共催で毎年開催されているPure and Applied Chemistry International

Conference 2014 (PACCON2014)にも参加しました。今回の場所はタイの北部の都市Khon Kaenでした。

合同会議の初日には分子研とカセサート大学の研究者の口頭発表がほぼ同数で計11件あり、2日目にはJENESYSまたはEXODASS事業で以前に分子研に滞在した経験のある若手研究者7名の口頭発表がありました。内

容は理論・計算化学、生物化学、錯体化学と多岐にわたっていましたが、活発な質問や議論が多くあり、参加者の交流が深められました。特に近年、カセサート大学では生物化学分野の研究が発展してきており、生体系の分子シミュレーションや構造論に関して共通の興味が見出されました。

参加者はカセサート大学だけでなく、総研大・物理科学研究科と同様のMOUを締結しているチュラロンコン大学や、国立科学テクノロジー機構、また近隣の高校からの参加もあり、全体で約40名になりました。今回の合同会議では、過

去にタイから分子研を訪れた若手研究者や当時学生であった人達が自国で活躍し始めていることを実感できました。また、新たに分子研のPIの研究にふれることができた学生にとっては、国際的な視野を

持つ良い機会になったと思います。今後、EXODASS事業等を通して（特に総研大の学生として）、分子研で研究を行うといった交流が進むことを期待しています。

（江原 正博 記）



## E V E N T R E P O R T

### 担当教員 総研大アジア冬の学校

2013年度担当教員 総研大物理科学研究科構造分子科学専攻 准教授 正岡重行

総研大アジア冬の学校が平成25年12月10日（火）から13日（金）にかけて岡崎コンファレンスセンターにおいて開催されました。分子研で行っている研究・教育活動をアジア諸国の大学生・大学院生および若手研究者の育成にまで拡大することを目的として、平成16年度に始まり、今回で10回目になります。アジア諸国から定員を大幅に超える応募を受け、書類選考の結果、17名の学生に参加いただきました。その国籍別の内訳は、タイ6名、中国2名、インドネシア4名、シンガポール3名、ベトナム1名、マレーシア1名でした。また、EXODASS招聘留学生が12名、日本国内からの参加者が14名あり、講師を除く参加者は合計43名でした。写真をご覧ください。

今回は、テーマを「Innovations and Challenges in Molecular Science: From Basics to Cutting-

edge Researches」とし、分子研の村橋先生、山本先生、江原先生に加え、核融合研から招待講師として長坂琢也先生をお迎えし、講義を行っていただきました。また、総研大の若き研究者として、金尚彬氏、望月建爾氏にもご講演いただきました。参加者によるポスター発表、EXODASS招聘留学生に

よるミニシンポジウムも行われ、充実した4日間となりました。

無事に冬の学校を開催できたのは、講師の先生方、もう一人の世話人の柳井先生、EXODASSの世話人である櫻井先生、総研大担当秘書の福富さんを始め、ご協力いただいた多くの方々のおかげです。深く感謝いたします。

